

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く! 其の9

はじめに

今月も地域の方々より聴き取り調査で教えて頂いた、キャンプ瑞慶覧基地の戦前の風景や湧泉の様子をイメージしたスケッチ図などを中心に歴史・文化遺産を紹介します。



シンバルガー(新原泉)

「アラグスクフルガー(新城古泉)」とも呼ばれ、新城集落が現在の普天間飛行場基地のところへ移動する以前、キャンプ瑞慶覧基地内に元々の集落があつたとの言い伝えがあり、その頃の「ムラガー(村泉)」だったと言われる湧泉です。

シンバルガーの下流の水路には米軍が造った揚水場があり、それが廃止された後、伊佐浜の方々が水源地として使用するために造った比較的新

問合せ・文化課 893-14430



ユタカノイズミ(豊之泉)

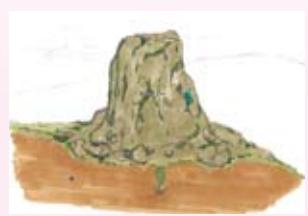
自然の湧泉で、伊佐浜などの近隣の住民や畠仕事をした人たちが利用したそうです。また「ウマアミシガ(馬浴泉)」とも呼ばれていたようです。



ノグニグワーヌメヌカー(野国小之前之泉)

新城集落と安仁屋の集落移動に関する次のような言い伝えが残されています。「昔、新城と安仁屋の集落移動に關係する次の悪くいつも喧嘩をしていたが、カンナシーが毎晩怒鳴ったことから両集落の人々は恐れ集落を移動した」と。

新城にあったという大岩で、戦前まで、ウーマクー(やんちゃ)な子どもたちは登つて遊んだりして



カンナシ(雷石)

新しい湧泉で、飲み水や産湯として利用されていたそうです。現地には「豊之泉 着工一九五九年二月一一日 竣工一九五九年三月一五日」と当時の記録が残されています。

「キャンプ瑞慶覧②」

とど
留めておきたいシマクトウバ

「ケツケツケツ」と家の中でよく聞くこの鳴き声の正体は何でしょうか?トカゲに似た爬虫類の小動物、ヤモリ(ホオグロヤモリ)です。家内外の虫を食べることから家を守るものとされ、「守宮」または「家守」と書かれます。

そのヤモリを、それぞれの地域のシマクトウバ(方言)では何と言うか、明治以前、間切時代からあつた14か字を対象に1984(昭和59)年と1999(平成11)年の2回、

調査を行つたことがあります。図1からわかるように、昭和の調査ではヤーグムヤーとヤールーがそれぞれ1文字、ソージマヤー・ソージムヤーとヤードゥー・ヤールーがそれぞれ1文字だけになりました。

前回の調査から10年以上経つた現在、またさらに変化しているかも知れません。



みなさんは何と呼んでいますか?近年、9月18日の「しまくとうばの日」が盛り上がりをみせていますが、こういう身近な小動物の名称からも地元の言葉を再認識するきっかけになればと思います。

語ヤビライガルーシマクトウバ!!

※しまくとうばの日:毎年9月18日。2006(平成18年に沖縄県条例によって定められた記念日。「く」で9、「どう」で10、「ば」で8のころあわせ)。

茶ぐわーゆんたく 113



「宜野湾市史」への問合せ
文化課市史編集係(市立博物館内)
870-9317